

# 東建パブリニュース

平成30年 1月19日

経営管理本部 広報IR室

《このニュースは、当社に関連する記事が掲載された新聞・雑誌等の情報を逐次、速報するものです。》

掲載

平成30年 1月17日 日刊工業新聞 P. 5

●当社に関する記事の掲載がありましたので、以下の通りご報告いたします。

### 物流改善の新潮流

41

ナスラック（名古屋市中区、左右田稔社長、052・2332・8030）は、2017年11月からアパート内装工製品の物流を効率化した。仕入れ品の一部のアパート建設現場への配送を集約。複数の仕入れ品のまとめ便や、仕入れ品と自社生産品との混載便に切り替えた。建設現場1カ所への平均配送回数を従来比約4割減の23回とし、年間約3800万円のコスト削減を見込む。配送トラックが路線便からチャーター便になることで時間の正確性にもつながる。キッチンカウンターや水回り品などの仕入れ品は従来、仕入れ先の工場や倉庫から建設現場への路線便による

## 現場への配送回数4割減

ナスラック

アパート内装品の自社生産品と仕入れ品の混載便。チャーター便にすることで時間も正確になった

仕入れ品・自社生産品混載

直送だった。これらをたケースもある。神奈川県鎌倉市や神戸市西区など全国4カ所の自社工場経由とし、キッチンや建具などの自社生産品との混載、もしくは仕入れ品の集約貨物としてチャーター便で自社工場から建設現場に配送する。東北や九州など自社工場から離れた地域では協会の工場経由とし、集約が難しい地域もある。今後、照明やクロスなど仕入れ先から建設現場へ直送のままの内装品も集約を検討する。「現状に比べて大幅なコスト削減が見込めるなど効果が大きければ実施する」（敷下史征製造販売部長代理）とし、効率化の対応を広げる方針。

路線便は値上げでコストが増加しているのに加え、配達時間の正確性がチャーター便に比べると劣る。1回の配送で建設現場に届く荷物量は増えるため「保管場所の確保が課題になる」（同）場合もある。それでも配達時間の正確性が高まれば、内装工事の職人を手配しやすくなる。

従来、同時配送の内装品を電話やメールで連絡していたが、18年1月から工程管理システムを改良し、パソコンなどで常に確認できるようにしている。

（名古屋・市川哲寛）

以上